

こどもクリニック通信・第9号 平成17年12月

“訓練”から“セラピー”へ

榆の会こどもクリニック

院長 石川 丹

榆の会をご利用になっている方々、ご家族、関係者の皆様へ

榆の会では、“訓練”という言葉を止めて“セラピー”という言い方に変更したいと存じます。

榆の会の私達職員は発達に心配のある方々への支援、お手伝いをしています。

人間の発達は子どもの時だけではありません。生涯発達という視点から私達はお子さんのみならず20歳以上の方々に対してもお手伝いしています。

私達がしているお手伝いは発達のメカニズムの説明理論に基づいています。

私達は、遊戯療法、理学療法、作業療法、言語療法、心理療法、栄養療法、看護療法、精神療法、薬物療法、歯科治療、医学治療などをしていますが、これらはいずれも科学的理論に裏付けられた療法、つまり therapy (セラピー) です。

また、例えば、理学療法をする人は療法士 (セラピスト) 、作業療法をする人は療法士 (セラピスト) であって訓練士ではありません。

かつて、札幌市には肢体不自由児母子訓練センターという療育施設がありました。この場合の訓練とは理学療法を指しています。当時は母親に理学療法をマスターしてもらって、母親自身が直接毎日家で子どもに理学療法、つまり訓練をするという方法が一世を風靡していました。

さて、訓練という言葉にはどういう意味があるのでしょうか。広辞苑によれば、実際にあることを行なって習熟させること、一定の目標に到達させるための実践的教育活動、動物にある学習をさせるための組織的手続きで褒賞または罰を用いるのが普通、とあります。

訓練という言葉には教育という意味が含まれますが、受ける側の方々は訓練という言葉をどのように感じるでしょうか。つらくても頑張るという悲痛な響きを含んだ言葉のように思われますが、いかがでしょうか。

私達は“訓練”という言葉を使わずに、“セラピー”、“セラピスト”という言葉を用いるようにしたい、と思います。

皆さんにはよろしくご理解の上、同調して頂けるようにお願いいたします。